

# 議長の アイ 目 ランド

**今回は「にいじま漁業  
協同組合平成31年度通  
常総会」での挨拶から  
お送りします**

伊豆諸島ブームが続いた昭和50年代から平成10年位までは観光を中心に輝き続けた新島・式根島でしたが、現在は各産業とも元気をなくし、平成元年に3700人程居た人口も、今年の1月には2700人程に激減しています。村は国や東京都の支援を受けながら地方創生に力を入れ、光ファイバーに

よる高度情報通信網の整備や飛行機運賃の補助等住民が住み易い島作りの戦略を進めています。少子高齢化による人口減少に歯止めがかかりません。特に新島の中心産業であつた漁業においては、少子高齢化の波をまともに受け、後継者不足から、専業漁師が大幅に減少し、水揚げ高も2億円そこそことなり、漁協経営が危機的な状況になっているような気がします。

幹産業である漁業を、衰退させるわけにはいきません。皆で知恵を出しあつて、後継者が育つ漁業環境に改善していかなければなりません。5月には元号が改元されますし、来年は世紀の大イベント東京オリンピック・パラリンピックも開催されます。村の活性化は勿論ですが、それぞれの産業の活性化を図る絶好の機会でもあります。

本日提案された、平成31年度事業計画(案)を見させていただきましたが、事業は昨年とほとんど一緒で、組合経営を改善するための新しい事業がなにも出てきません。漁師それぞれが組合経営に責任を持たなければいけないことは勿論ですが、組合は漁師、一人一人が安心して生活が営めるような、事業を展開していかなければ、新規漁業者は生まれてこないし、漁師専従者も減少するのではないでしょうか？

何代か前の村長が、毎年この総会の席で、口開け口止めの問題、イセエビの密漁、新鮮な魚の地元消費等いろいろな改善策を提案されていますが少しも実現されていません。同時に、本日の総会の出席者の少なさに、「これが新島の主要産業である漁協の総会か」と、漁師の関心の低さを残念にも思います。

新島村の漁業に活力を与え、住み易い新島村を実現するために漁師の皆様方の奮起を期待します。新島村議会は、皆様方と一緒に新島村の漁業の活性化に努力することを誓い申し上げます。ですが総会の挨拶といたします。

平成31年3月25日

新島村議会議長

前田邦弘



▲4月17日わかごう漁協における活魚運搬システム「魚活ボックス」のデモンストレーション。二酸化炭素を溶け込ませ調整された海水に魚を入れ、睡眠状態にして輸送することで、輸送コストを大幅に削減でき新鮮なまま出荷することができる。今後の販路開拓に期待